

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第2095号 2011年12月26日(月)

《 have a happy new year 》

いよいよ2011年の最後の一週間です。欧米やアジア市場の一部は週初がクリスマス明けの関係で休みの所も多く、日本などの市場は正月控えて週末にお休みモードになる。そういう意味では本格的な取引の週ではないのですが、特にクリスマス明けの欧米市場では来年に向けた動きが出てくるでしょう。そういう意味では、気が抜けない。

先週の市場を振り返ると、ヨーロッパの危機も小康状態、アメリカ経済には強さが復活したかのように、欧州各地、それにニューヨークの株価などは堅調推移しました。しかし全般にクリスマスを控えて取引が薄くなる中での上昇であり、どの程度本気にして良いのか分からないが、危機慣れの状態に市場がなってきたことは想像できる。ユーロ崩壊に向けた準備の動きさえ徐々に広まっているのだから、イタリアの国債利回りの上昇など多少の事では市場は驚かなくなっていると言える。

先週出なくて今週から予想されるのは、大手格付け会社の欧州政府、国債、銀行に対する格付け見直しだろう。その結果次第では、市場はまた次に向けた動きを示す可能性がある。もしかしたら「次に向けた動き」は、今までとは逆の動きになる可能性がある。少なくとも当面は、ユーロも欧州の国債もかなり下げ余地を失った可能性があるからだ。市場は常に一方に動くとは限らない。

2012年を展望すると、引き続き値動きの激しい展開が予想される。この一年で、各種相場の連動性は著しく高まった。「ドルが売られる時には金を買われる」などの過去の方程式が通用しない場面も多くなった。来年もそうなる可能性がある。それは全体として、「リスク資産」と「非リスク資産」の分類が重要になって、「リスク資産」の中での乗り換え需要が低下したためである。これは明らかに「相場の枠組み」の変化を意味し、「投資の難しい時代」「ヘッジファンドも行き詰まる時代」の始まりを意味した。来年も難しい相場になるだろう。

日本を含めて「財政危機」は多くの国が抱える問題となっている。個人や法人が借金過多の際には「どのような手順で処理するか」が明文化されているのに対して、国の借金過多はどのように処理するのかがはっきりしていない。もともとその前提がなかったからだ。特に多くの先進国にとって、今までは借金過多で傾くのは途上国ばかりだった。しかしこれからは違う。「先進国が行き詰まる」ことが十分に予想される時代に入ってきた。これは戦後の市場とは大きく違う。

今年には日本にとっては3. 11があり、天災・人災が多い一年だった。頻繁な政権交代も人災のうちに入るかもしれない。世界を見れば、チュニジア、エジプトなどで民衆の力による政権交代があったし、ロシアも「春」に揺れている。2012年は、制度的な政権交代が数多く予想されている。アメリカ、中国、ロシアなど。日本も可能性がある。非制度的な政権交代も世界の一部の国で起きる可能性が高い。そういう意味では、来年も息が抜けない一年となりそうだ。

今年一年ありがとうございました。来年もよろしく。そして、最後にこの一週間の予定だけ掲載しておきます。

今週の主な予定は以下の通り。

1 2月26日 (月)	休場／米・英・豪・シンガポール・香港
1 2月27日 (火)	1 1月企業向けサービス価格指数 金融政策決定会合議事要旨 (先月開催分) 1 1月住宅着工 米10月S&P／ケースシラー住宅価格指数 米12月コンファランスボード消費者信頼感指数 休場／英・豪・香港
1 2月28日 (水)	1 1月全国・1 2月都区部 消費者物価 1 1月家計調査 1 1月労働力調査 1 1月鉱工業生産 1 1月商業販売統計
1 2月29日 (木)	新規失業保険申請件数
1 2月30日 (金)	大納会 休場／韓国

《当「ニュース」は住信基礎研究所首席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》